

▼今回のポイント

- ☑ **DAIICHIKOUTSU INDIA**(第一交通インディア)代表取締役社長 鈴木敦詞
- ☑ **第一交通インディアとは？**
- ☑ **鈴木社長の人材育成のこだわり「日本流サービス」**
- ☑ **日本の第一交通産業グループの皆さんへ鈴木社長からメッセージ**

【話者紹介】

今回は、海外よりDAIICHIKOUTSU INDIA(第一交通インディア)の、代表取締役社長の鈴木敦詞(あつし)社長を話者に迎え話を伺う。

同社は、インドのバンガロール市に拠点を置き、事業としては①タクシー関連サービスと②整備工場の事業を行っている。従業員はおよそ175名(日本人2名で、残りのスタッフはドライバー140名を含めた全員がインド人)。

【インドならではの事業も】

まず、タクシー関連サービスでは、日本と同様のタクシー事業に加えて、インドでは「ドライバー派遣」も行っている。これは、家庭の事情で休暇をとることが多いインドの風土から、法人顧客のニーズをカバーするものだ。

また、バンガロールには、トヨタやソニーなど400社近い日系企業が拠点を置いている。日本から出張できた社員の送迎に第一交通インディアのサービスが多く利用されているという。

【事業を通して国家課題の解決に挑む】

次に、2つ目の整備工場の事業では、自社、他社の車輛の整備や修理と、インドでの主要な交通手段であるバイクのメンテナンスも行っている。

この背景にあるのが、インドでの交通事故による死亡数の多さだ。鈴木社長は、第一交通インディアでの事業を通じて、ドライバーの品質向上や安全性の追求によって、こうしたインドの国家課題の解決にも貢献していきたいと語る。

【鈴木社長の人材育成のこだわり】

鈴木社長に人材育成のこだわりを伺うと「日本流サービス」という。また、インドの現地企業では、雇用形態や福利厚生が不十分という会社も多い中、一方、第一交通インディアでは、全てのドライバーが正社員で、さらにボーナスの支給や成果に応じた評価も行っている。

【鈴木社長から第一交通産業グループの皆さんへ】

鈴木社長「第一交通産業グループの社員の皆さんの中には、まだまだ海外で何をしているか分からない方も沢山いると思います。

少しでも『日本を知ってもらっているんですよ』とか、日本のサービスを海外でも提供していることを知って頂くことで、どこかで繋がると」